

産学連携による地域活動における地域住民、企業の満足度と 学生の教育効果に関する実践研究

社会福祉学科 武田 英樹

I. 研究背景

近年の国民の健康志向にサウナブームが合わせさり、全国各地でサウナを活用した地方創生や地域おこしの活動が増加している。サウナというコンテンツを社会資源に位置付けたイベント開催はトレンド感を好む若者たちにも注目され、地域活性化や経済効果を高めることに繋がっている。

例えば、鳥取県では鳥取県庁の観光戦略課の主導により、2021 年 10 月、「とっとりサウナツーリズム」として、日本で初めて国立公園内にフィンランド式サウナを設置し、熱波師を地域おこし協力隊として受け入れるなどの取り組みが、多数のメディアに取り上げられるなど話題を呼んでいるところである¹。さらに、サウナを活用した健康づくり、免疫力向上、ストレス低減に関する医学的研究も進んでいる²。

このような社会情勢の中、美作地域は西日本有数の温泉地域であり、各所の入浴施設にサウナが設置されている。津山市では有限会社えびす商会在 2 か所で銭湯を運営しており、テントサウナイベント、アウフギーサー(熱波師)を在籍させるなどし、サウナの普及に力を入れ始めている。この度、学生たちの「対人援助職を目指す自分たちがサウナユーザーの人たちとコミュニケーションを図り、サウナをコンテンツに地域活性化を図ることができるのではないか」との要望にえびす商会在が応える形で、当サウナ施設や屋外用テントサウナを活用し、地域活性化や地域貢献を目的としたイベントをえびす商会在と大学サークルとの協働開催を企画する運びとなった。

II. 研究の目的

本研究の目的は、①産学連携による地域活動が学生にどのような教育効果をもたらしているのか、②産学連携による地域活動が学生に教育効果をもたらす要因は何か、③地域住民と企業の満足度を明らかにすることである。

III. 美作大学 REGION3U7(リージョンサウナ)の結成と活動

本サークルは、2023 年 3 月に美作大学のサークルとして結成された。メンバーは社会福祉学科学生 7、児童学科 1 名である(2024 年 3 月現在)。活動目的は、サウナを通してサークルメンバー相互の親睦、および教養・健康の推進を図り、サウナを起点とする地域貢献に寄与することである。活動においては、有限会社えびす商会在から「「地元大学生の地域貢献をしたいという一生懸命さを応援することができれば」と企業コラボでの活動が提案され、REGION3U7(リージョンサウナ)サークルのみの活動に止まらず、食物学科学生らによる美作大学調理師会によるサウナ飯メニュー

一開発やグランプリ受賞メニューの店内出品等、大学内での学生同士の連携も図りながらイベントが開催された。

日本を代表するサウナプロディーサーの太田広も美作大学を訪れ、「大学生が企業とコラボしてイベントをしていることに加え、大学の教職員がサポートしたり、広報しているのは全国でも非常に珍しい取り組みである」と本活動を称賛し、学生のイベント企画に対する助言指導や美作大学調理士会によるサウナ飯メニューの開発では監修を務め、全面的な協力を得るに至っている。2023 年度の約 1 年の活動だけでも TV、新聞や地元情報誌にも取り上げられた。主な活動やメディア掲載は表 の通りである。

表1 REGION3U7 の活動とメディア掲載

2023年	
3月7日	サークル結成 アウフグーサー松尾氏による講習会
4月15日	アウフグース西日本大会観戦（大阪府）
6月25日	Nature Sauna（鳥取県東伯郡琴浦町）視察・インタビュー調査
7月9日	えびす乃ゆ×美作大学REGION3U7コラボ企画第1弾 テントサウナ超熱波祭
7月19日	山陽新聞デジタル版掲載
7月26日	津山朝日新聞掲載
8月9日	岡山県北タウン情報誌JAKEN取材
9月1日	JAKEN9月号「私たちの活動特集」にて掲載
10月5日	太田広（サウナプロデューサー）招聘によるイベント企画指導
10月28日	津山朝日新聞掲載
11月3日	えびす乃ゆ×美作大学REGION3U7コラボ企画第2弾 SAUNA焚火祭
12月20日	津山朝日新聞取材
2024年	
1月3日	津山朝日新聞掲載
2月8日	美作大学MAS賞 表彰
2月22日	亜州大学国際交流としてえびす乃ゆでサウナ体験企画
2月22日	RSK取材・当日放送
2月27日	津山朝日新聞掲載
3月14日	えびす乃ゆ×美作大学REGION3U7コラボ企画第3弾 SAUNA焚火祭

IV. 研究方法と結果

本研究では、サウナイベントに参加した一般市民に対して、アンケート調査を実施した。調査方法は本イベントに参加が確認できた来場者にアンケート調査の趣旨を説明し、同意を得られた者のみに対して、Google アンケートの二次元コードを配布し、その場で回答してもらった。調査日は第 1 回目が 2023 年 7 月 9 日、第 2 回目が 2023 年 11 月 3 日の合計 2 回である。回答者は 10 代から 60 代の男性 39 名であった。

アンケートでは、回答者の体験をもとに「イベント全体の満足度」「企業とのコラボイベント」「地域活性化」「サウナの普及」「市民と学生の交流」「学生の社会経験」「コミュニケーション能力の向上」

のそれぞれについての有意義性について 1 点(意義がない)から 5 点(とても有意義)の範囲で評価を求めた。

アンケート結果は、「イベント全体の満足度」が平均値 4.8 点、「企業とのコラボイベント」が平均値 4.8 点、「地域活性化」が平均値 4.5 点、「サウナの普及」が平均値 4.4 点、「市民と学生の交流」が平均値 4.5 点、「学生の社会経験」が平均値 4.1 点、「コミュニケーション能力の向上」が平均値 4.6 点であった。

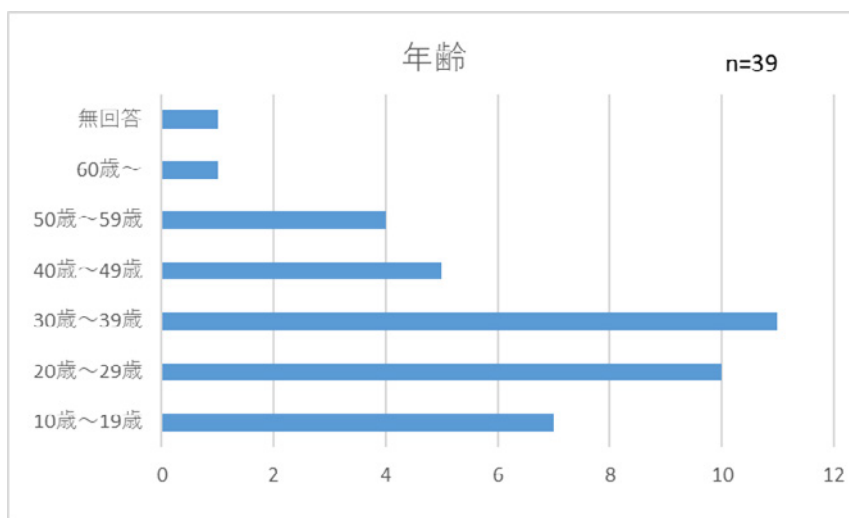


図 1 年齢

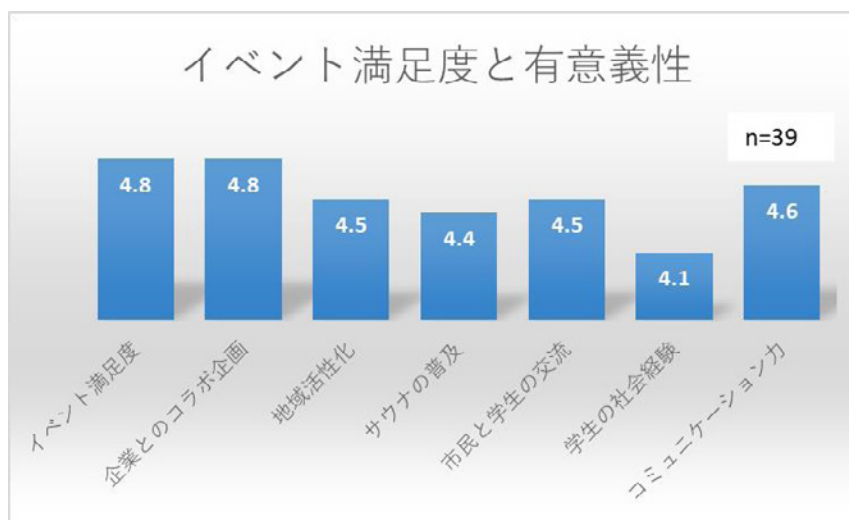


図 2 イベント満足度と有意義性

また、サークルの学生 5 名に対して、「本サークルの活動で得たことには何があるか」を問い、回答を求めた。回答は下記のとおりである。

表 2 学生たちが本サークルで得たこと

A	このサークルで部長になった。これまでは誰かを引っ張って何かをするのではなく、誰かについていく人生だった。部長として、後輩の前を歩いて引っ張る役割であったり、企画の提案であったり、企業コラボのための打ち合わせであったり、部長ならではの苦労や難しさを知ることができた。社会人になって、今後何かをしていこうと思ったときにこの活動の経験が生きてくると思っている。
B	部長を支えていく経験によって、社会福祉士として働いていく上でのサポート力が養えたと感じている。常日頃から企画がうまく進んでいくように部長のサポートを意識する機会が多く持てた。
C	普段の大学生活では絶対出会うことのない人とコミュニケーションをとる機会が多く持てた。企画を実行していく過程で裏方の重要性についても理解できた。
D	事前打ち合わせをしながらも本番で調整していく現場対応力が身に付いた。
E	就職時の面接で受けた質問内容の多くがサウナサークルでの活動であった。「大変興味深い取り組み、そういった地域を巻き込んだ事業をうちの法人でもやりたいと思っている」と褒められ、自分たちがやってきたことが福祉業界でも評価されて自己肯定感が上がったし、自信にもなった。

V.総括

本実践研究における学生への教育効果は、下記の7項目をあげることができる。

- ① 自己肯定感の向上：企業からの期待、地域住民の応援、マスコミによる報道から
- ② 責任感の向上：企業コラボによるイベント開催、イベント予約状況から
- ③ リーダシップ力の向上
- ④ サポート力の向上
- ⑤ 企画・運営力の向上
- ⑥ コミュニケーション能力の向上
- ⑦ 会議運営技術の向上

ただし、これらの教育効果を高めるにあたり、学生を取り巻く環境要因を整えていくことが必要であると考えられる。経験未熟な学生たちを企業側スタッフや大学教職員がサポートし、参加者である市民が応援するといった環境整備が進むことで学生のサークル活動が継続可能となり、教育効果を高めていくことになる。

本研究では、実践研究を通して学生の成長を目の当たりにすることができたが、その根拠を明らかにするには至っていない。さらに企業側の満足度や成果について十分なデーターを収集留守に至らなかったため、引き続き、実践を重ねていく過程において、今後の課題としたい。

【引用文献】

- 1)鳥取県ホームページ「とっとりサウナツーリズム促進イベント開催等支援事業補助金の事業募集」
<https://www.pref.tottori.lg.jp/304490.htm> (2023.4.10)
- 2)春山顕一「地域資源としてサウナを活用した地域住民との健康づくり活動」日本サウナ学会誌
vol.2. 2022.
<https://www.ja-sauna.jp/> (2024.3.20)